

旧武居家住宅

江戸時代後期に建てられた佐倉藩士の住宅です。表向（おもてむき）と生活空間を二列に分けた平面が特徴的。細い木柄の柱を一間毎に立てる古い形式で、それぞれの列に入口を設けて武家住宅の特色をよく示しています。中級藩士の住宅遺構として貴重で、現在公開中の3棟の武家屋敷の一つです。



国の登録有形文化財へ —文化審議会にて答申—

平成28年3月11日（金）、国の文化審議会は、佐倉市内の「旧平井家住宅」「旧武居家住宅」を国の登録有形文化財とするよう文部科学大臣に答申しました。

旧平井家住宅

佐倉旧城下の町人地に位置し、江戸後期には新炭商、明治・昭和期には酒屋を営んでいました。接道する店舗兼主屋の脇には蔵を建て、背面側に座敷が付属。角地に建ち、地域の歴史的景観に寄与しています。店舗兼主屋は明治中期、座敷棟は昭和6年、脇蔵は大正6年の建築であることがわかっています。



【お問合せ】佐倉市教育委員会文化課

TEL:043-484-6192